

公益財団法人網走監獄保存財団/博物館網走監獄

平成 29 年度事業計画（案）について

平成 29 年度収支予算（案）について

説明資料：平成 29 年度主要事業の概要

1 重要文化財の保存と価値観を高める活用を図る

平成 28 年 2 月 9 日、当財団が所有し博物館網走監獄において保存公開をしている旧網走監獄、旧網走刑務所建造物 2 件 8 棟が重要文化財に指定され 1 年が経過、博物館網走監獄も開館 35 年の節目となります。

(1) 重要文化財建造物の耐震専門診断 事業

今年度より 3 年間をかけて、博物館として歴史的建造物の外観現状を確保しながら耐震補強計画作成を進めます。補強計画作成にあたりまず耐震専門診断が必要となり初年度は、8 棟の重要文化財の構造調査、地盤調査、構造診断を行います。

なお、3 ケ年間の全体予算額は、約 62,000 千円です。初年度は 16,468 千円となり平成 28 年度において国及び網走市に助成申請をしておりましたところ、国より二分の一相当額の 8,234 千円、網走市より 1,000 千円交付の内示を頂いております。今後、北海道に対しても助成申請を行う予定となっています。

・新規事業

予算額 支出 8,300千円

(支出科目：委託調査費、食料交際費、旅費交通費)

(収入科目：補助金収入 9,234 千円)

※「耐震専門診断実施積立金」8,000 千円取崩しで対応

(2) 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立 事業

国民共有の歴史的資産である重要文化財指定を受け、今後の建造物の防災体制の確立に引き続き取り組みます。既存の消防計画を見直し、現状の体制に見合った新しい消防計画を網走地区消防組合のご協力を仰ぎ作成、提出します。

網走地区消防組合、地域消防団との連携を進め「文化財防火デー」に防災訓練の実施を企画します。

・継続事業

予算額 1,130千円

(支出科目：防災管理委託料)

2 充実した博物館の運営を図る

(1) 博物館社会教育事業

① 体験講座、ワークショップの開催 事業

新年度の物作り体験講座は、日本人が自らの手を駆使して行っている物作りに注目し、過去から伝わる職人技をテーマに企画しました。春の体験講座「藁で草履を編み履いてみよう」、夏休み体験講座「炭を焼いてみよう」、「クラフト体験 財布作り」、秋の自然体験講座「山ぶどうを染めてみよう」、クリスマス体験講座「粘土を焼いてスノードーム作り」、冬の体験講座「金工体験」「紙漉き体験」など8講座を通じて子供から大人まで楽しめるメニューで講座を開催します。

・継続事業 予算額 700千円

(支出科目：臨時雇用賃金、消耗品費、教育普及費)

② 農園体験ワークショップの開催 事業

長期連続講座として、網走刑務所の特徴である農業を主体に農園体験ワークショップを5月から12月まで8回にわたり開催し、植え付けから収穫体験、調理実習、加工食品作り、かぼちゃを利用したハロウィンランタン作りと一連の講座を通じて地産地消を学び、二見湖畔神社収穫祭へと繋げてまいります。

・継続事業 予算額 500千円

(支出科目：臨時雇用賃金、広報費、教育普及費)

③ 看守長屋の年中行事 事業

「看守長屋の年中行事」は、網走刑務所職員官舎を会場に、薄れ掛けている日本の古き伝統行事を博物館に訪れる全ての人対象に体感させるものであり、春のひな祭り、五月の節句、夏の七夕、秋の十五夜、正月準備、正月七草、鏡開き、節分と8回の伝統行事を通じて季節の移ろいと日本人の知恵を感じさせるイベントで誰でも参加可能な形式にいたします。七夕や節分は外国人に好評ですので、外国人の印象に残る伝統行事となるよう表現したいと思います。

・継続事業 予算額 300千円

(支出科目：臨時雇用賃金、消耗品費、教育普及費)

④ 季節イベントの開催 事業

ゴールデンウィーク、秋のシルバーデーに実施するイベントは、国内家族旅行のお客様の占める割合が多いため、子供の日になみ、餅つきとかしわ餅のプレゼント、むかし遊び、竹トンボ、竹笛などの伝統遊具作り、重要文化財スタンプラリー、豆わらじストラップ作り、二見湖畔神社収穫祭には、網走刑務所の三眺神輿を「網走無窮会」の皆様にご担いでまいります。子供神輿担ぎ体験や獅子舞などお祭りを賑やかに演出します。また博物館開館35年企画展連動イベントとして「明治の文豪が愛した食 文明開化の食フェア」を収穫祭にて実施します。博物館利用者誘致につながる参加しやすく楽しいイベントを開催するものです。(1,100千円)

屋外イベント用テントが購入より20年を経過しましたので3張りを更新します。(900千円)

・継続事業 予算額 2,000千円
(支出科目：器具費、臨時雇用賃金、器具費、教育普及費)

(2) 企画展開催 事業

① 企画展「網走刑務所の畜産作業」展

5月～6月30日まで開催します。刑務所の作業として行っている和牛飼育においてA5ランクが出荷されており、「網走監獄和牛」として人気を博している現状であるため、網走刑務所の畜産作業の歴史と資料を展示する企画展です。

② 博物館開館35年特別展「博物館明治村に見る文明開化と明治建築の魅力」展

7月から12月まで開催します。奇しくも今年は明治の始まりから150年にあたり、明治村においても、明治村の重要文化財展を開催しているので、建築資料だけでなく、明治時代の衣装、生活用具などもお借りして、明治時代を体感できる企画展といたします。この企画展に合わせて、記念講演会を実施し、博物館明治村から学芸員を招聘します。

・継続事業 予算額 1,200千円
(支出科目：旅費、通信運搬費、器具費、教育普及費、印刷製本費)

※その他臨時費用に「博物館開館35周年記念フォーラム開催費用」1,500千円計上

(3) 友の会への助成

① 博物館網走監獄友の会助成 事業

友の会は、監獄の歴史に興味のある方、博物館に興味のある方並びに博物館を支えるサポーターとして会員を募り発足から10年を向えます。現在43名の個人会員と11の団体会員が入会されています。新年度も引き続き、博物館でのボランティア活動を通じて生涯学習を实践する場として、会員の得意分野を活かし達成感のあるボランティア活動となるよう、展示解説活動、イベントスタッフ、冬の雪像作りなどの支援を頂きます。また、二見桜並木の植樹、中央道路開削慰霊碑の清掃活動、友の会博物館紀行バスツアー、企画展展示解説会なども合わせて企画し、会員自らが楽しみながら生涯学習の裾野を広げることのできる友の会活動を進めてまいります。

・継続事業 予算額 200千円
(支出科目：負担金)

② 『二見桜並木と古道をまもりそだてる会』助成 事業

二見桜並木の保護、啓蒙活動は次第に実を結びつつあります。新年度も会を通じて網走刑務所に桜の開花時期に並木部分の一般市民開放をお願いするほか、植樹用苗木提供（10～15年生桜苗木10本程度）、秋の並木内下草刈り作業外部委託など費用助成を実施します。

・継続事業 予算額 350千円

（支出科目：植栽雑費）

(4) 多言語化事業

① ホームページ多言語化（4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化の項で説明）

② 屋外展示資料解説版更新 事業

訪日外国人入館者数が26,000人を超える現状に対応し、浴場、二見ヶ岡施設、鏡橋の説明看板についても多言語化し、LED内蔵照明のものに更新し、順次翌年以降も進めてまいります。

・新規事業 予算額 1,600千円

（支出科目：固定資産取得：展示備品）

※「展示資料説明版更新積立金」1,600千円取崩しで対応

3 文化財建造物の維持、館内の整備と固定資産の取得

(1) 危険箇所の整備 事業

28年に取り組んだ基本計画に基づき、館内園路の舎房浴場間部分 330 m²の舗装改修を実施します。冬期間の滑り止め、夏期間の排水能力に優れたインターロッキング舗装を採用し斜面部分の安全対策とします。

・継続事業 予算額 10,000千円

(支出科目：固定資産取得・環境整備)

※「冬期間園路対策、舗装改良事業積立金」10,000千円取崩しで対応
建物入り口部分にコンクリート製階段・スロープがある裁判所棟、教誨堂はゴムチップマット敷設による安全対策を施工します。木製階段腐朽箇所のコンクリート置換え作業や建物内の段差解消用スロープ改修等、凍上しやすい園路の補修等、来館者の安全確保を第一義に細かな対策を進めます。

・継続事業 予算額 980千円

(支出科目：施設維持保持費)

(2) 再現構築物維持 事業

木造再現構築物木製独居房 2棟及びび看守長屋、浴場等の基礎周りや木製建具など腐朽が見受けられる箇所の補修を実施します。

・継続事業 予算額 460千円

(支出科目：修繕費)

(3) 防災対策 事業

設置から30年以上を経過し保守点検により更新を求められた受電設備の一部及び給電配線を改修します。海外からの入館者増加対策として非常放送の外国語音源(日本語以外に4言語想定)を制作します。総合消防訓練実施に備え、職員用保安帽、作業用皮手袋、非常用貸与品などを整備します。耐用年数を超過する消火器更新を行います。

・新規事業 予算額 860千円

(支出科目：施設維持保持費、器具費、消耗品費、防災管理委託費)

(4) 館内景観整備 事業

整備に着手して5年、次第に姿を整えてきている宿根草植栽による景観整備を地域のフラワーマスター事業との連携も考慮しながら継続して進めます(1,100千円)。園地内の除草・樹木の維持作業(750千円)、冬期間駐車場除雪(1,400千円)は外部業者への委託事業とし効率よい管理を行います。

・継続事業

予算額

5,100千円

(収益事業 支出科目：臨時雇用賃金、植栽雑費、施設維持保持費)

4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化

1.入館者の確保

(1) 入館者、入館料収入の確保

昨年8月の道東地区の大雨被害の影響等による観光客減少傾向から未だ完全に脱却した状況になく

- ・29年度の有料入館者目標を22万人（前年度見込み比3.1%増）とします。
- ・29年度の入館料収入を198百万円（前年度見込み比3.1%増）とします。

予算額 198,000千円

（収入科目：入館料収入）

(2) 入館管理POSシステムのクラウド化、クレジット機能の追加 事業

導入から6年を経過する入館管理POSシステム基幹サーバーのクラウド移行によるデータの安全管理を進めると同時に、入館者利便の向上として窓口クレジット決済を追加導入します。

・継続事業

予算額 4,500千円

（支出科目：固定資産取得・什器備品）

※「入館管理POS改修積立金」4,500千円取崩で対応

(3) 海外観光客誘致を目的とした事業

近年急激に増加している個人型観光客（FIT）確保を目的に受け入れ態勢の整備、情報発信、誘致キャンペーンへの参加等、現況に応じたスピーディーな対策を進めます。

- ・受入れ体制整備として受付窓口の入館料金、注意書き等の表示に外国語（英文、中文を予定）を付加したものに更新するなど館内表示の見直しを進めます。冬期間、園地内に雪像や流水、雪のすべり台を設置し冬遊びを体験できるコーナーを造成します。（窓口表示改修-施設維持保持費300千円）
- ・博物館公式ホームページの外国語版をスマートフォン等のモバイル端末からの閲覧対応が可能なものとし、掲載情報を刷新するリニューアルを行います。現在の英文・中文簡体字・中文繁体字・ハングルに近年入館増加が著しいタイ語表示を付加します。（外国語ページ改修費用-広報費2,310千円）
- ・網走市、観光協会、地域連携団体等の実施する海外誘致キャンペーンへの参加、当館独自の海外渉外活動（香港、台湾での旅行代理店、航空会社訪問）を行います。道東3空港への定期便開設、チャーター便誘致要望に地域と連携して取り組みます。（旅費交通費等856千円）

・継続事業

予算額 3,466千円

（支出科目：施設維持保持費、広報費、旅費等）

(4) 入館者誘致を目的とした情報発信 事業

増加傾向にある国内外の個人旅行者の誘致に繋がる対策として以下の事業を行います。

- ・インターネットを利用した情報発信。公式ホームページの維持と内容の充実、SNS (Facebook 等) を利用した情報発信を行います。(ホームページ維持費用-広報費 420 千円)
- ・広告掲載は販売数の多い全国販売型旅行雑誌に集中を図り、広報予算の効率的支出を進めます。(旅行情報誌広告掲載 2,568 千円)

・継続事業 予算額 2,988千円
(支出科目：広報費)

(5) 修学旅行、団体型観光客誘致 旅行代理店対策プロモーション 事業

国内旅行代理店対策は、地域連携の誘致キャンペーンに参加するほか人口集中地(首都圏、関西等)への送客先涉外活動を行います。(訪問活動、業者連携団体への加盟・会議出席、旅行商品パンフレット製作協賛、送客手数料の支出)を行います。

・継続事業 予算額 8,000千円
(支出科目：旅費、負担金、広報費、支払手数料)

(6) マスコミメディア受け入れによる広報 事業

テレビ・雑誌等の取材に丁寧に対応し、映画、ドラマ、PV 撮影等も積極的に受け入れ、漫画や文芸作品の制作協力を行うことにより施設のマスコミへの露出頻度を高めます。地元報道機関への館内行事等の情報発信を木目細やかにを行い連携を深める等、様々な手段で施設への興味を高めてもらう努力を続けます。

・継続事業

2.収益事業の強化

(1) 収益事業会計の目標

- ・収益事業会計の売り上げ目標を、総額58,250千円、前年度予算費7.9%増とします。
- ・物品売上収入29,000千円、食堂売上収入22,000千円、賃貸料収入6,550千円、販売委託手数料700千円。

予算額 58,250千円

(収入科目：物品売上収入、食堂売上収入、賃貸料収入、販売委託手数料)

(2) 売上管理 POS システムのクラウド化、クレジット機能の追加

- ・入館管理 POS 更新にあわせ収益事業会計の売上管理 POS も更新します。物販部門のクレジット機能追加、食堂会計券売機との連動作業を行います。

予算額 1,200千円

(支出科目：収益事業固定資産取得・什器備品)

※「入館管理 POS 改修積立金」1,200千円取崩で対応